

保守とは何か

経営者たる者、日々、判断の連続である。明確な判断基準を必要とせず、なんとなく、その時の感情で決める事もある。また、定量的基準が明確に定められており、それに従ってドライに判断する事もある。これらの判断は、時には労力がかかる事があるかもしれないが、さほど難しくはたははずである。

難しいのは、経営方針に基づいて判断する事である。この判断は、そもそも経営方針が無いと、判断がその都度小くなる事になる。判断が小になると、自分のやっている事に筋が通らないため、やがて行き詰まる事になる。何度か行き詰まる、そもそも経営方針が無かった事と経営方針の必要性に気づき、自分の経験に基づき、自分の頭で考え始める。やがて、「こういう事だったのか。」と何かに気づく。

経営方針が定まると、如何にして品質を維持し磨いていくかという「保守」が課題となる。業務を反復継続していく中で品質が保たれ磨かれていくものだが、何かを「保守」するためには相当程度の「革新」が必要となる事に気づく。単に革新を追求するだけの破壊行為とは異なる。保守とは、「守るべきものを守るために、どこに革新が必要か。」と考え行動する事なのである。

最後に、令和4年も「濃い字」を御高覧頂き有難うございました。良いお年をお迎えください。

江幡 淳